



八面石塔



平家山



白山神社



桜井寺



全国各地に残る平家の落人伝説

岡崎市切越町に
ありますよ。

八面石塔



高さ1.5m~1.7m前後の八墓の多層塔で、自然石を積み上げて造ってある。細長い石四本を掘り立てて柱とし、その上に広い板状の石を置いて第一層を築き、五郎太石を数個並べてその上にまた板状の石を置いて第二層とした。これを繰り返して五層、あるいは六層とし最上に、長めの石を相輪に見立てて置いている。中世何らかの祭祀のために造立されたと推測されるが、平家ゆかりの落武者あるいは南朝関係者の墓などの説もある。

大分県玖珠郡九重町の松木地区、平家人の周辺には平家の落人伝説が残っています。壇ノ浦の合戦に破れ、九州各地の奥山に逃げ込んだと言われ、ここ豊後の玖珠盆地一帯にも平家一門の武将と女子供300人余りが逃げ落ち、更なる危険を避ける為に3つの奥山に分かれて生き延びると同時に、周囲一帯に住み着いたとも言われます。また、家の再興を期して財宝を隠したと言われる山もあります。彼らの名前に因んで、付近の一帯の山は「平家山」、「宝山」、「大祖山」などと名付けられたそうです。